

## 6 クモヘリカメムシ成虫行動の温度依存性

### ねらいと成果

クモヘリカメムシは成虫で越冬し、10～12月までエノコログサ等のイネ科雑草の繁茂している場所に多数生息している。1～3月は、これらの雑草地で捕虫網によるすくいとりで捕獲されず、明らかな越冬場所の特定には至っていない。そこでクモヘリカメムシの移動性と温度条件について明らかにするため、温度毎の成虫の行動を観察したところ、20℃以上で飛翔し、10℃以下では移動行動をとりにくいことがわかった。

### 内容

2004年11月加西市で成虫を採集し、野外条件で飼育している個体群を用いた。人工気象室等で5、10、15、20、25℃に設定し、雌雄1ペアをプラスチック容器（容積79cm<sup>3</sup> 底面直径60mm・上面直径47mm・深さ35mm）に入れ、それぞれの供試温度に約2時間静置した。

クモヘリカメムシの走光性を利用し、図のように窓際に置いた実験装置で放飼点から供試虫が光に向かう行動を観察した。結果は雌雄による差はほとんど無く、5℃ではすべて「静止」、10℃では「微歩

行」が約90%、15℃では全て「歩行」、20℃では「歩行」が約40%、「短飛翔」約50%、「通常飛翔」約10%であった。25℃では「短飛翔」約20%、「通常飛翔」約80%であった。10℃以下では活動は静止状態が続き、15℃では歩行がみられ、20℃で飛翔行動を始めた。

兵庫県南部では日平均気温が10℃を上回る日は1～2月はほとんど無く、3月になって数日あるだけである。このことからクモヘリカメムシは12月に棲息していた場所から移動せず越冬しているものと思われる。

### 今後の方針

1～3月の雑草地におけるクモヘリカメムシの棲息状況を明らかにする。

山下賢一（農業技セ・病害虫防除部）

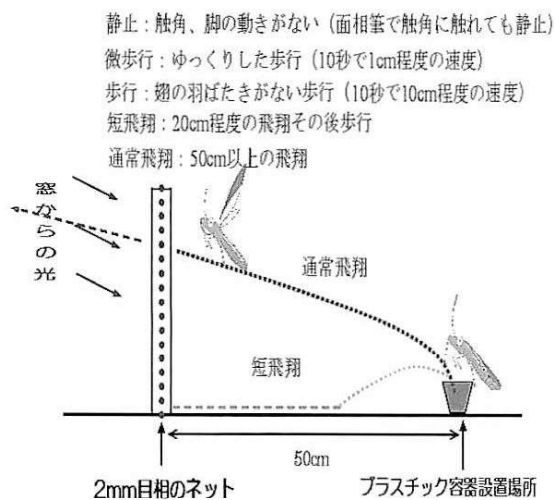


図1 クモヘリカメムシ行動実験装置

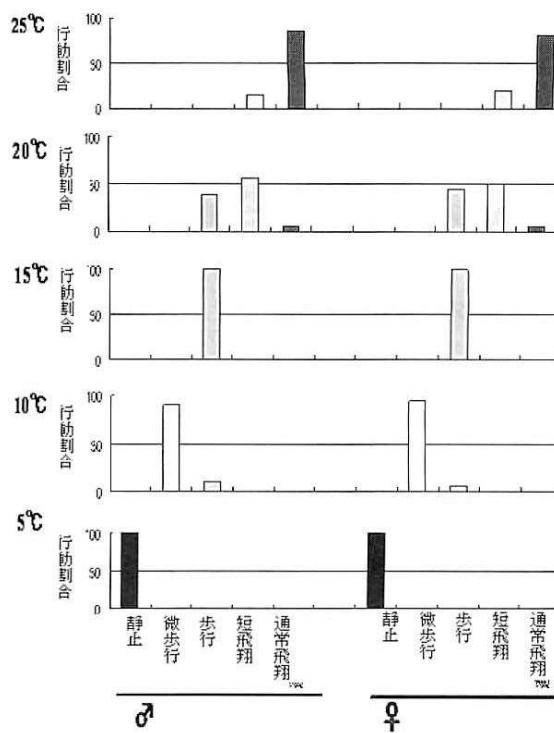


図2 クモヘリカメムシ成虫行動の温度依存性